

もがみ大豆だより

第1号<圃場準備・播種編>
令和4年5月19日
最上総合支庁 農業技術普及課
TEL：29-1333（作物担当）

大豆の収量確保に向けてのポイント！

①圃場の排水対策 ②土づくり ③適期作業

1 圃場の準備

①排水対策の実施

- ×排水不良の圃場＋播種後の大雨
⇒過湿による発芽不良、種子の腐敗の原因
- ×圃場の地下水位が高い
⇒根が深く張れない、根粒菌の着生少ない
⇒生育不足になりやすい

○中耕・培土等の適期作業のためにも排水対策は不可欠！

- サブソイラや明渠の施工等でしっかり対策する
⇒明渠の深さの目標は40cm程度



写真1 排水対策、土づくりを行った圃場の生育（8/2）（新庄市）

②土づくり（土壌pH：目標値 6.0～6.5）

■大豆が吸収する窒素のほとんどは地力と根粒菌に由来（図1）

- 堆肥施用による「地力向上」が収量向上のポイント
⇒○地力の維持・増強のため堆肥を施用（表1）、
基肥は不足しがちなリン酸、カリを重点的に施用（表2）

○根粒菌の活性が高まる最適土壌pHは6.0～6.5

- ⇒×水田転作圃場のpHは5.0～5.5と低い傾向
⇒○土壤改良資材（炭カル・苦土石灰等）で土壌のpHを適正化（表1）

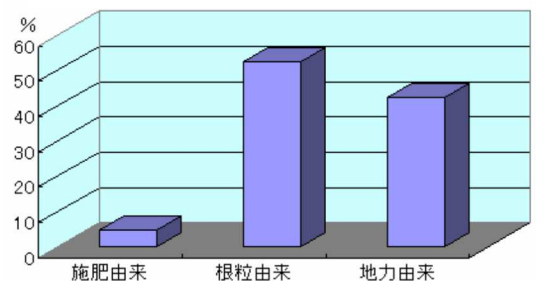


図1 大豆が吸収する窒素の内訳（山形農試）

表1 堆肥および土壤改良資材の目安

資材名	効果	10a 当たり 施用量
発酵鶏糞 豚糞堆肥 牛糞堆肥	地力の維持、増強	100kg 0.5～1t 1～2t
苦土炭カル 苦土石灰	pH適正化、 根粒着生、生育改善	80～120 kg

表2 基肥施用量の目安（成分kg/10a）

窒素	リン酸	カリ
2～3	6～8	10～12

リン酸、カリを重点的に施用！
堆肥等も活用して補いましょう！

③耕起作業（砕土率：目標値 70%）

- 耕起作業は砕土率（直径2cm以下の土塊の割合）が70%以上になるよう丁寧に行う！
⇒土壤がある程度乾いた状態で行うことが大切
⇒出芽時のムラを防止し、土壤処理除草剤の効果も安定！

2 品種の選定

○地域の立地条件や圃場条件、収穫時期を考慮して、品種の選定を行う（表3）



里のほほえみ シュウリュウ

表3 最上地域で主に栽培される大豆の品種と特徴

品種	早晩性(成熟期)	百粒重	ダイズシスト センチュウ 抵抗性	特徴
リュウホウ	早生(10/7頃)	29g程度	強	しわ粒がやや多い
シュウリュウ	早生(10/8頃)	30g程度	弱	品質・収量はリュウホウに優る
里のほほえみ	中生の晩(10/14頃)	37g程度	弱	大粒、裂皮・しわ粒が発生しにくい 成熟期後に莢がはじけにくい

3 病虫害防除

■ネキリムシ類の成虫は雑草の葉や地際部に産卵する
⇒播種前からの圃場周辺の除草が大切（圃場近辺に産卵させない）

○播種後の病虫害を防ぐため、大豆種子に薬剤処理を行う

4 播種(適期作業)

○大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬

⇒適期内で播種時期が早いほど、開花期までの生育量（分枝数、茎の太さ等）が大きくなり、収量向上が期待できる

○播種時期が遅れる場合、生育量を栽植本数で補うため、播種量を増やす（表4）

表4 <播種時期別 10aあたりの栽植本数及び播種量の目安>

	播種時期 (月/日)	栽植本数 (本/10a)	株間の目安 (畦幅 75cm、 2粒点播の場合)	必要な種子量 (/10a)		
				リュウホウ	シュウリュウ	里のほほえみ
適期 ↓	5月下旬 ～ 6月上旬	12,000	22cm	3.8kg	3.9 kg	4.7kg
	6月中旬	15,000	18cm	4.8kg	4.9 kg	5.9kg
晩播	6月下旬	18,000	15cm	5.7kg	5.9 kg	7.1kg

5 雑草防除

○雑草発生量の多い圃場では、耕起前に農耕地用非選択性除草剤の散布が効果的

○土壌処理除草剤は、遅くとも播種後2日以内に処理する

⇒播種後の土壌処理除草剤は、ほ場が乾燥し過ぎた状態で処理すると除草効果が劣る

■散布後の大雨は、薬害が発生することがあるので、天気予報を確認して処理を行う

山形県農作業事故防止啓発運動 春季運動強化期間(4月10日～6月10日)
農作業は、焦らず、準備万端に、気を引き締めて。